

デトロイト1週間研修・体験記



このたびは貴重な機会をいただきまして、アメリカのミシガン州・デトロイトへ2016年8月に1週間滞在させていただきました。本来このプログラムは京都大学医学部4回生向けのものですが、1名空きが出たとのことで、関連病院である当院へお話しをいただきました。

デトロイトはアメリカ中西部、カナダに面した世界有数の自動車産業都市です。昔8 mileという映画でみたスラム街が非常に印象的でしたが、実際に訪れてみると街には穏やかな空気が流れておりました。特にホームステイ先の山崎先生のご自宅はDoctorも多く住む高級住宅街に位置し、デトロイトの歴史的建造物にも指定された由緒正しい建築物でした。お借りした部屋には浴室・トイレがついており、およそ私のマンションと同じ大きさでした。

到着した日曜日にはフォード博物館へ観光に行き、月曜日から金曜日まで山崎先生と一緒に病院・クリニックの見学に行きました。アメリカの循環器開業医は、クリニックで診た患者さんを提携病院へ紹介し、自分でカテーテルをしに行くという日本と異なったシステムです。開業してもカテーテルを数多く経験出来るというのは、魅力的なシステムではないでしょうか。山崎先生はCTO含めたPCI、EVT、TAVIと幅広い分野のカテーテル治療を行っていらっしゃいます。私もSt.JOHN hospitalでは実際にカテーテルの術野に入らせていただき、間近に手技を拝見しました。日本ではまだ使用出来ないDeviceもいくつかあり、現行Deviceとの違いにも驚きました。アメリカの医師はResidentとして卒後内科研修を3年間行い、General Cardiologyを2年間専攻した後、interventional fellowshipに進むことが出来ますが、各段階に高倍率の試験があり、狭き門となっています。日本では好きな科を選び、好きな専門に進むことが出来るため、恵まれた環境にいたる感じました。

食事は山崎先生のご自宅か病院の食堂でいただくことが多く、いわゆるjunk foodではなく健康的な食事を食べて過ごし

ました。ご自宅にはプール、ビリヤード、卓球台があり、研修後には楽しい夜を過ごすことができました。一緒に滞在した京都大学の学生さん2人は非常に勉強熱心で、私が4年生の頃には知っていたはずもない知識を持っていて驚きました。また初対面の年長者と毎日一緒に過ごすのはなかなか大変ではないかと思いますが、一緒に遊んでもらい、楽しく1週間過ごすことが出来ました。来年にも当院へ研修の話がいただけるかは不確定ですが、もしお話しが来た時にはぜひ後輩に勧めたいです。ただ一つだけ、帰りの飛行機は天候で1日くらい容易に押すことを注意しておきたいと思います。

最後にこの場をお借りして、山崎先生、奥様、病院スタッフの皆様、京都大学の学生さんに、楽しく有意義な1週間を過ごさせていただいたことに心から感謝しております。またこのような貴重な機会を下さった安藤先生はじめ小倉記念病院の皆様、代診を引き受けてくれた心優しい同期にもお礼を述べさせていただきます。このようなチャンスをいくつもいただけるのが、当院の魅力の一つと感じております。このように小倉記念病院を通じて出来る絆が、今後も脈々と広がっていくことを願っております。ありがとうございました。

小倉記念病院 循環器内科 後期研修医

廣瀬 薫